科目ナンバリング	U-LAS05 10001 LJ40						
授業科目名 <英訳>	文化人類学Ⅰ Cultural Anthropology I			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　風間　計博		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(基礎)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期	曜時限	火5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

本講義では、20世紀に展開してきた近代文化人類学の基本的な概念や思考法に関する概説を行う。

文化人類学は、大航海時代を経てヨーロッパ人が世界各地に進出し、圧倒的な文化的他者と遭遇したとき、西欧近代側の人類学者が他者をいかに解釈するかをめぐって展開してきた学問領域である。両者の相互作用を通じて起こった、文化の創出や流用、置換、混淆、模倣、変形等の諸事象に焦点を当てて、具体的な民族誌的事例を紹介して解説を加える。とくに、人間と人間を媒介する贈与交換や貨幣に関するトピックをとりあげ、文化人類学の基本概念や基本的知識を随時紹介して受講生の理解を深めたい。

[到達目標]

文化人類学の基本概念を理解したうえで、人類学的な思考様式やパースペクティヴの習得をめざす。日々流通する膨大な情報や身近な出来事について、私たちが当然と思い込んでいること（常識）を問い直すことのできる、批判的な視点から自文化を内省的に考察できるような眼を養う。

[授業計画と内容]

以下の項目につき、1～2回の講義を行う。授業回数は総括とフィードバックを含め全15回とする。なお状況に応じて、オンライン授業を行う可能性もある。

１．文化人類学とはどのような学問か
　１-１．序論
　１-２．フィールドワークと民族誌
　１-３．現代世界と人類学

２．贈与交換論―人間を結ぶモノ
　２-１．古典的贈与交換論
　２-２．競覇的関係と贈与
　２-３．婚姻とインセストタブー

３．現代の贈与交換と伝統貨幣
　３-１．太平洋島嶼部における贈与交換
　３-２．伝統貨幣と贈与交換
　３-３．歴史的変化のなかの伝統貨幣

４．貨幣の両義性
　４-１．貨幣のもつ象徴性と悪魔性
　４-２．市場経済と互酬性
　４-３．新自由主義

５．総括―現代世界における贈与と市場

文化人類学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

文化人類学Ⅰ(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業時に課す小レポート30%）および小試験（70%）による。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
授業中、参考文献を適宜紹介するので、積極的に自習すること。

[授業外学修（予習・復習）等]

文化人類学の基本文献に目を通してから授業に出席することが望ましい。
また、授業中に提示した文献を読みこんで理解を深めること。

[その他（オフィスアワー等）]

受動的な知識の吸収のみならず、自ら思考する姿勢が求められる。
なお、講義室に収容可能な人数を上限として、受講者数を制限する。制限人数を越えた場合、KULASISにおいてランダムに選抜する。

[主要授業科目（学部・学科名）]